

エヌ・クラフト

新たに「フリッパーロボット」を開発

AI画像認識による選別ロボット

総合環境機器メーカーのエヌ・クラフト（愛知県西尾市、林憲昌社長、☎0563・65・6635）は、AI画像認識による新たな選別ロボット「フリッパーロボット」を開発した。ピンボールのフリッパー状に成形した選別装置で、コンベヤー上において、左右に設置したシュートへ対象物を弾くようにして仕分けられる。既設の廃棄物処理工場の搬送ラインなどに取り付け可能で、今後、顧客の

ニーズに合わせて設計・設置を進める。また、同社が開発・販売する飲料容器自動選別機「ガラガポン」にも、「ガラガポン」にも、瓶の選別作業の機械化の用途として導入可能だ。

同社は、画像認識システムと高速ロボットアームを組み合わせた「N. robot」を全国展開し、受注を伸ばす一方で、より簡易的なAI選別の開発にも注力してきた。新開発した「フリッパーロボット」は、従来のロボッ

トアームや吸着式と異なり、樹脂製のため、耐久性の向上やランニングコストの削減も図れるとした。

林社長は、「フリッパーロボットは、既設のコンベヤー上にも応用できる。搬送の工程で選別も行える新装置として、一般廃棄物・産業

廃棄物の処理ラインへの導入やプラントの製造・設計を引き受けていくと話した。また、「今後、人手だけでなく、廃棄物も減少傾向にある。脱炭素の観点からも地域内で完結する廃棄物処理が求められていることから、省力化・省電力化につな

がり、かつユーザーが選択しやすいAI選別を提案していきたい」とした。

同社製品との組み合わせとしては、飲料容器自動選別機「ガラガポン」と合わせて、オプションで販売している方針だ。「ガラガポン」は、混合飲料容器から異物を除去し、瓶、アルミ缶、スチール缶、PETボトルを効率的に選別できる装置。選別フローは、はじめにシリアルに設計したコンベヤーを振動させ、混合飲料容器よ

りキャップやライター、瓶の破片、その他廃棄物等の細かい異物を除去。次工程のエアナイフにより、瓶や飲料の残った容器等の重量物と、缶・PETボトル等の軽量物とに分ける。さらにアルミセパレーターでアルミ缶・スチール缶・PETボトルを効率的に選別する。その後の工程において、AI画像認識により、自動で瓶の色別仕分けが可能。仕分けへと高機能化を実現する。

AIで廃棄物の体積を測定

結果から概算見積もりも可能
デイ・ディライト
AIで体積を測定
結果から概算見積もりも可能
（広島市、藤原吉朗社長、☎082・208・4510）は、写真撮影した廃棄物を解析し、AIで体積の測定ができるスマートフォンのアプリ「Cube」の拡販を進める。廃棄物処理業者と排出事業者間で使用するもの。目方の計測では、営業担当者の熟練度によ

て体積にバラつきが生じることもあるが、同アプリの導入により客観的な数字を顧客に提示できる。1立方センチメートルの処理費を登録でき、測定した体積に対する費用をアプリ上で表示可能だ。

同アプリは、廃棄物が収まる最小の立方体の積み上げで体積を測定。例えば、平積み

ファンファール

販管システム「稼ぎ頭」を新発売

産廃DXの最安値に挑む



産廃特化の販売管理システム

産業廃棄物処理業界のDX化に向けたサービスを提供しているファンファール（東京・新宿、近藤ゆき社長、☎5月1日、見積り・

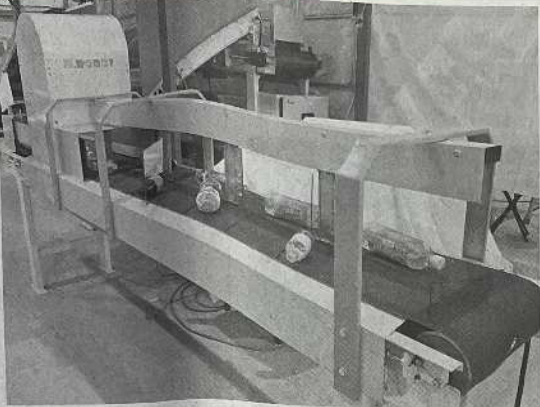
契約から請求までの業務工程を一元管理することができるとした。サービス「稼ぎ頭」の提供を開始した。クラウドベースのサービスのため初期費用が無料（導入支援に係る費用は別途必要）で、月額利用料金も3万円からと安価となっているため、事務作業のDX化と効率化を価格の高さからあきらめていた産業廃棄物処理業者も容易に利用開始することができ

る。稼ぎ頭は、専用のウェブサイトに登録された情報は後に変更（数量等）を加えることができる他、見積書等の社内稟議や顧客との合意ステップ

の管理、PDF出力や印刷することが可能だ。同社がすでに提供しているAI配車管理「配車頭」とも連携できる。

従来では、各工程に対して別々のツールを利用していることが多いため連携が難しく、重複入力等が発生していた。稼ぎ頭では一元管理が行われるため、重複入力が必要なくなる。今後は、すでに顧客企業で導入されている他社システムとの連携についても図っていく。会計システムとの連携については達成予定だという。

近藤社長は「稼ぎ頭



新開発した選別ロボット「フリッパーロボ」

ロコ

いて、事業地内の廃棄

同役員が廃棄物処理法

員第1号に基づき、具

事及び第3号。同日

正了又をクラ

SPACWOOD L
ホワイテローズ